

井手町の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)に係る事業の効果検証

No	交付対象事業の名称	事業内容	実績額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値(H28.3時点)	本町における効果検証	実績値を踏まえた事業の今後について		地域創生戦略のKPI達成に有効であるかの委員による評価(※1)	各委員からの主なコメント	
				指標	指標値	目標年月			今後の方針	方針の理由			
1	地域資源を活用した観光振興事業	(1)観光案内サインの改修(英語表記追加) (2)新たな観光パンフレットの作成(4か国語対応) (3)JR玉水駅駅舎デザイン等の構想づくりのためのワークショップの開催等を行った。	16,310,160円 内訳 (1)7,661,840円 (2)4,594,320円 (3)4,104,000円	指標①	交流人口	前年比25,000人増加	H28.3	前年比24,763人減少 (H25:329,370人 H26:352,021人 H27:327,258人)	平成27年度は本町の観光の核となるさくらまつりが悪天候であったため、指標①は目標達成できなかったが、本事業により、来町者の利便性向上と町のPR強化を図ることができたこと、また、多くの方がワークショップに参加し、住民主体のまちづくりに取り組むことができたことから、本町の地方創生に相当程度効果があった。	予定通り 事業終了	今後は、井手町地域創生計画に掲げられた平成32年度までに交流人口50万人の達成に向け、観光パンフレットの配布等によるPR強化、京都府内市町村等と連携した観光プロモーションの展開による、さくらまつり以外の観光資源の開発及びPR強化を行い、年間を通じた安定的な集客ができる観光振興に取り組んで参りたい。	①4名 ②2名 ③5名 ④0名 ⑤0名	○観光客誘致のための基盤整備に効果を発揮していると評価できる。パンフ等を活用した広報展開の強化が求められる。 ○今後の展開に大いに期待。特に、インバウンド向けに外国語パンフレットの活用は、空き家の利活用とも連動してこれからの取り組みが重要。 ○町の効果検証にもあるように天候に左右されない観光への取り組み、独自のPR以外にメディア等を利用したPR戦略、観光客層のターゲットの絞り込み(県内居住者・県外者・外国人)が必要。 ○観光振興事業であるのに、これまで事業内容を知らなかった。まずは町民に知ってもらうことが必要。 ○平成32年度までに交流人口50万人を達成するためには、まずは平均を40万人まで上げていくべき。 ○駅舎については、デザインだけではなく、ベビーカーや車いすの方にも利用しやすいことが大切。
2	空家実態調査事業	町内の空き家を調査した上で、空家台帳を新たに整備し、空家台帳のデータベース化を行った。	3,000,000円	指標	空き家の活用件数	1件	H28.3	0件 ※H28.9時点では1件(井手町空家バンクの登録は6件)	町内の住宅ストックが不足している中、利用可能な空家を把握し、将来的な利活用に向けた準備を進めることができ、また、今後も移住者等による空家の利用が十分に見込めることから、本町の地方創生に相当程度効果があった。	予定通り 事業終了	今後は、井手町地域創生計画に掲げられた平成31年度までに10棟の空き家の利活用に向け、空家バンクを通じて移住希望者等とのマッチングや、京都産業大学の活動拠点となる空き家の整備等を行う予定であり、空家の利活用の取り組みをさらに進めて参りたい。	①6名 ②2名 ③3名 ④0名 ⑤0名	○定住促進の第一歩として評価できる。 ○将来へ向けての基礎的な枠組みを整備できた。KPIは年度末で達成できていないが、転出転入対策として有効となるよう、今後取り組んでいくべき。 ○件数ありきではなく、まずは利活用のモデルケースを整備すべき。 ○今後は空家バンクの周知に加え、他市町村での空き家の先進的な活用方法を研究すべき。
3	地域防災の充実強化事業	消防団の装備の基準等の一部改正に伴い、消防団員の安全確保及び消防団活動の充実強化を図るため、安全安心に活動できる新基準の装備品の整備を行った。	7,000,000円	指標	町内在住消防団員数	210人	H28.3	211人 ※H26は207人	少子高齢化や雇用形態の変化により、地域防災の一翼を担う消防団員の確保が困難である中、町内在住の団員数は前年比で4人増加したことから、本町の地方創生に相当程度効果があった。	予定通り 事業終了	今後は、井手町地域創生計画に掲げられた平成31年度までに250人の消防団員の確保に向け、国が定める基準等の改正を注視しつつ、地域の消防・防災活動を通じ、特に町内在住の方の加入促進に向け、PR等を図っていく必要があると考えられる。	①4名 ②6名 ③0名 ④1名 ⑤0名	○消防団員が増えたことは、結果的には効果が出ていると考えられる。 ○安心安全の観点から、指標をクリアしたことは評価できる。これを基盤として、町内の防災対策、防犯対策にも活用を進めていただきたい。 ○服が新しくなったから団員が増えたとは思えない。 ○今後は観光(桜まつり等)とも連携し、防犯への取り組みも進めていただきたい。

※1①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない